

本能まちづくりニュース

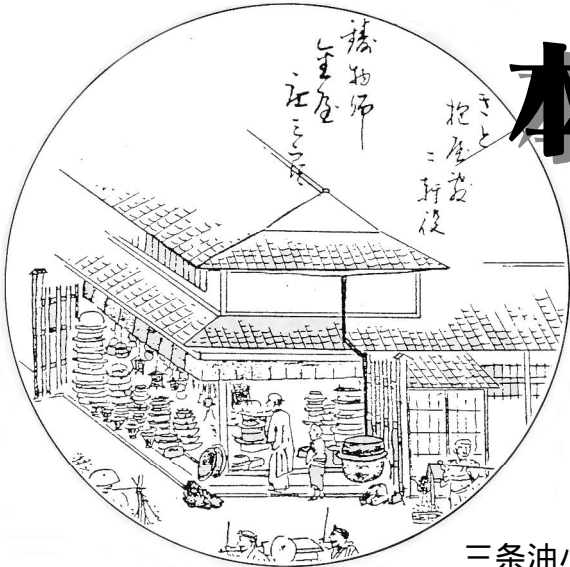
第47号 平成20年12月5日発行

本能まちづくり委員会
委員長 西嶋直和

E-mail: post@honnoh.net

URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

のれん里親制度 をよろしく

「本能に咲かせようのれんの華」活動に関するアンケートにご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

この場では簡単な結果だけご報告させて頂き、詳しい分析結果報告は、後日、全戸配布させて頂きます。

配票数は 1079 部、回収票数は

698 部でした。アンケートでは、戸建住宅にお住まいの方を対象に、現在まちづくり委員会が進めている「のれん里親制度(のれんを預かっていただく制度)」に協力いただけるかどうかについてもお尋ねしました。この設問に回答いただいた 270 名の方のうち、条件付ながら預かってよいという趣旨の回答を頂いた方が 111 名もおられました(「預かってよい」が 60 名、「条件によっては預かってよい」が 19 名、「預かってよいが掛けられるかどうか不安」が 32 名)。こんなに多くの方から「のれん里親制度」対してご理解いただいたことは、委員会にとって大きな励みです。本当に有難うございます。なお、「今のところはなんともいえない」と答えられた方が 106 名、「預かりたくない」は 53 名でした。

とりわけ、「預かってよい」と回答いただいた六角油小路町の花之内さんは、のれんを掛けるための設備まで用意されていて、委員一同、

感激させられました。ありがとうございます。今後、3月20日の伝統産業の日に向けて、のれん里親制度にご理解頂いた方々のお宅を個々に訪問し相談させていただきたいと考えておりますので、その折にはよろしく願いいたします。



10年めの おいでやす

本能まちづくり委員会は、今秋で設立10年です。「まちなかを歩く日」の11月16日に、「おいでやす染のまち本能」を、初めて1日のみの開催で行いました。

午前中は小雨で、やや出足は鈍りましたが、のれんの華スタンプラリーは快調でした。高倉小学校スマイル21プラン委員会TAKAKURAコミュニケーション部会のよびかけで高倉小・御所南小・京都御池中の子供達・保護者134名が参加。一般のお客様・特養入居者の方を含め255名がスタンプを完押され、3枚組み伝統色ポストカード(今回は、黄朽葉・杏・深川鼠の3色。毎回変わります)をゲット。公開工房は7軒のうち3軒を巡るコースで、20組80人が参加されました。高齢者福祉施設1階ホールでは、4人の職人さんによる匠の技実演、今回初めて和装小物販売(芝和ミシン)、古代建築模型展示(清水栄一氏制作)を行い、皆様、興味深げに見ておられました。恒例のマイキモノプロデュースは自治会館和室で開きました。

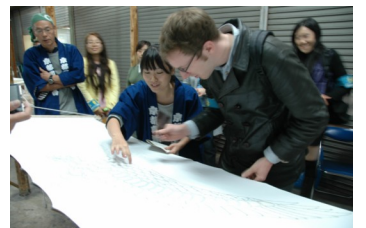
総来場者は400人ほど。外国人も来られました。スタンプラリーを終え「あー、楽しかった!」と帰っていく子供達に会うと、こちら嬉しいでした。お越しいただいたお客様、ご協力いただいた職人さん・スタッフの皆様、ありがとうございました。



総来場者は400人ほど。外国人も来られました。スタンプラリーを終え

「あー、楽しかった!」と帰っていく子供達に会うと、こちら嬉しいでした。お越しいただいたお客様、ご協力いただいた職人さん・スタッフの皆様、ありがとうございました。

「あー、楽しかった!」と帰っていく子供達に会うと、こちら嬉しいでした。お越しいただいたお客様、ご協力いただいた職人さん・スタッフの皆様、ありがとうございました。



あの建物、この道。懐かしさいっぱい・・・

11月2日(日)、『昔の本能を語る会』が開催されました。

本能まちづくり委員会では、本能学区に住まわれている皆さんの思い出を集めて、在りし日の本能学区のまちの姿をよみがえらせる企画を考えており、今回はその一環の企画でした。3連休の中日でしたが、20名(うち学生6人)集まっていたいただき、簡単な自己紹介から始まりました。A0サイズに拡大した昭和31年と昭和41年の住宅地図と、当時の本能校や暮らしぶりがわかる写真を見ながらわいわいとざっくばらんに昔話をしていきます。そしてそのあちこちで出た昔話をポストイットに書き込み、地図上にぺたぺたと貼っていきます。「ここに駄菓子屋さんがあってよく行った」「路面電車が走っていた」「当時は外でケンケンやおままごとをして遊んでいた」などと懐かしい昔話が飛び交い、さらにそこからまた話が広がり、2時間があっという間に過ぎてしまいました。本当にたくさんのお話を聞かせていただき、用意した地図がポストイットでいっぱいになった程で

す。ご協力ありがとうございました。今回聞かせていただいた昔話は、今までに提供していただいた写真と共に、わかりやすい形で



まとめ、12月のもちつき交流会の時にみなさんに展示できればと考えております。また、提供していただいた写真とは別に、まちづくり委員会で預かっている20～30年前の本能校児童の写真がありますので、これらの写真はお持ち帰り自由にし、残りはこちらで処分させていただきます(立命館大学乾ゼミ4回生)

秋田県からの研修生受け入れ～堀高に学ぼう～

京都市立堀川高校が秋田県からの研修生を受け入れ、学習の一環で、地元本能学区の伝統産業工房見学を、本能まちづくり委員会に依頼されました。



秋田県が、国の「全国学力・学習状況調査」(全国学力テスト 小学6年・中学3年生対象)では2008年度全国1位という成績であるにもかかわらず、高校レベルになると主要大学への進学率が下ってくるのはなぜか、という問題の糸口をつかむため、進学校に生まれ変わって誉れの高い京都市立堀川高校に、県立秋田高校の優秀な生徒を募り、14日間の研修に送り込んだものです。

高校生達は11月17日に飛行機で来ました。宿を伏見区に取り、公共交通機関を使って堀川高校に通学。11月18日、午前中は授業を受け、午後、京都の伝統工芸を学ぶカリキュラムで工房見学にきました。男子7名・女子5名の生徒と引率の先生方は、のれんの華が掛けられた自治会館会議室で本能まちづくり委員会西嶋委員長の説明を受け、ギャラリーを見学。上木さん・鹿島さん・荒木さん(堀川高校現PTA会長)の工房を巡り、仁科さん(同前PTA会長)で印染の体験をしました。

高校生達は、京都の印象は?と尋ねられ「素敵だ、何もかもが」。なぜ堀川高校に?「堀高を知り、受験へのモチベーションを高めて、それを持ち帰り、自分の学校に広めたい」。堀川高校の授業はいかが?に「理系の授業を受けたけれど、数学は習っていないところで・・・」等、ハキハキ答えました。前日より冷え込んだ18日でしたが「秋田はもっと寒く、もうすぐ雪が降ります」とのことでした。各工房では、技法を披露してもらい「スゴイ!」と感心し、自分でこの仕事をしようと思ったのか?何年くらいで習得できるか?等、質問し、「親父の前に座って習い始め、今で40年余になる。が、着物産業の先行きを考えると、子供には継がせていない」と聞き、「技術が途絶えるのはもったいない」という思いを持ったようでした。



本能学区の取り組みや、伝統工芸士の皆さんの熟練した技を見て、何か感じ取って将来への「やる気」を高めてもらえることを期待します。見学にご協力いただいた工房の方々、ありがとうございました。(N村)

ひとつになる

本能の職人さんたちは、一つの輪だった。伝統工芸品は、一人の職人により全てが手掛けられると考えていた。が、伝統の分業で作り上げられる一つの美に心打たれた。それはきっと、本能学区は地元の一帯感が強いからだろう。でも、結果だけを見る人が多くなり、過程が疎かにされている。この下では分業が生かされないと思う。それ故に伝統に対する日本人の愛着が薄れゆく現代だからこそ、個人の心に帰することが結束を強める要因になるだろう。(県立秋田高校生徒一同)

亀屋町の稲荷神社お火焚き祭 [平成20年11月17日、山田町の村田茂雄様が投稿されました。]

11月16日(日曜日)深秋の微雨の降りしきる中、ご町内の稲荷神社に於いて、皆様一致協力されて、お火焚き祭の神事をされていまして、取材させていただきました。

亀屋町の稲荷神社の由来

主神が民部稲荷ですが、何時からお祀りされているかは不明だそうですが、天明の大火(1788年)の後社殿が再建され、明治維新後に(明治3年に京の藩邸が廃止されています)この辺りに屋敷を構えて居られた藤堂家(戦国大名、藤堂高虎の子孫)より屋敷内に祀られていた、瀧田稲荷を住居移転される為、亀屋町のお稲荷さんにお祀りくださる様に依頼があり、それ以降並柱してお祀りされますように成りました。

明治20年代と大正初期と昭和10年頃に改修・改築されています。先の第二次世界大戦の終戦時までは、現在のガレージの場所に社務所があり、堂守さんが居住されていたそうです。神社の東側に沿って細い路地があり、空也堂の長屋があったそうです。昭和50年代にご町内にもう一社あった御福稲荷も転居された折りに依頼されまして、合わせて三柱としてお祀りする現在の状態になったそうです。藤堂家の稲荷神社の青砥石の石碓が参道左側の大木の下にあります。

祭事は年に三回、元旦祭(1月2日)初午祭(2月)お火焚き祭(11月)に催行されています。各お祭りは、武信稲荷神社の禰宜をお招きして、町内総出で盛大に務めておられます。

悩みの種は、境内の樹木が大きくなりすぎて、社殿・石畳・おキツネさんの台座等を持ち上げてくれる事、また落ち葉の量も多くその掃除も大変で、昔から町内各家が順送り当番にして行っておられ、日頃から綺麗にされていますし、修理・改修も町内に器用な方がおられ見事に護持されています。

何時の頃か分かりませんが、社域が市有地と成っており、京都市立堀川高等女学校が出来た時、昭和3年(1928年)に高女の敷地と一体化されています。

最近、特筆すべき出来事として、堀川高校に探究科ができてから？入試に付き添って来られた父兄・特にお母さんが、待時間にお参りしたら、合格すると口伝されてか、当社にここ2~3年入試シーズンには沢山のお母さんだけでなく、受験生達も合格祈願にお参りに来られているようです。(当神社は、御札・お守り等何も下賜されていませんが)

取材では、お火焚き祭は、地元の方のお仕事、染め屋さん、湯熨斗(ゆのし)屋さん等、各家が火を使うことから、始まったそうですが、もともとは、農耕感謝祭が起源だそうです。投稿に際し亀屋町の役員の方の資料提供に感謝申し上げます。お火焚き祭の様子の写真3枚添付させていただきます。

山田町 村田 茂雄
村田さんの投稿の原文・写真は本能まちづくり委員会ホームページに掲載しています。ご覧下さい。



学区情報 本能敬老会 初めてホテルで開催

今年の本能学区敬老会は9月15日(敬老の日)午前11時から京都国際ホテルにて行われました。

去年までは堀川高校の体育館を使用して行われていましたが、敬老の皆様を敬う気持ちを大切に、参加される皆さんが気持ちよく過ごしていただくためにホテルでの式典となりました。

式に至るまでの話し合いの場では「どれぐらいの人が参加されるのか?」や、「行くまでの道のりや、酒飲んで帰ってくるときが心配や」など、初の試みだけに不安に思うところもありましたが、参加を締め切ったところ、昨年よりもはるかに多い200名を超える参加者で、今度は「みんなどれだけ飲まはるかが心配や」とお酒の量を心配していました。

さらに当日は小雨が降りだし、雨脚が強くなるにつれ、行き帰りが心配になりましたが、皆さん無事にたどり着かれ、帰りも誰一人転ぶことなくお帰りになられたので、大変ホッとしておりました。



式典の内容については、京都御池中学校の生徒さんや高倉・御所南小学校の児童たちの代表者から、愛のこもった手作りプレゼントが長寿会の松村会長に手渡され、感極まって泣き出されるかと思うくらい感動的でした。

また、本能社会福祉手話サークルの皆様による手話コーラスや少林寺拳法の生徒さん達による形の演武、さらにNPO法人アプリの皆様によるアルトサックスの演奏、三番叟に獅子舞と盛りだくさんの内容で、演じる側からの真剣なまなざしが敬老会員の皆様の胸を打ち、厳かな中にも晴れやかで、情熱的な敬老会となったように感じました。

特養からも16名のご入居者様が参加され、会場の雰囲気からか普段では食べきれないような量を食べられる方や、職員に酒を勧める方もおられ、大変楽しまれておりました。

「これほどまでに立派で、本当に先輩を敬うような会は今まで見たことがありません。もうすべてが感動でした。」と若い特養の介護スタッフが言っていました。まさにこの本能敬老会はそうであったと思います。

これも開催に向けて努力された、自治連合会長をはじめとする実行委員会の皆様や、社会福祉協議会の皆様方などの力の結晶と、京都国際ホテルの理解あるご協力の賜物のだと感じております。(う)

10月12日(日)、第56回区民体育祭(主催:本能体育振興会)が爽やかな秋晴れの下、堀川高校グラウンドで開催されました。本年も久保周三体育振興会会長を中心とする体振役員・委員みなさんの周到な準備と運営の努力により、各世代で楽しめる14の競技、そしてゲームや抽選会を無事終えることができました。多数の地域住民がひとつの場所に集い、体力の増進と住民交流を実現できたことは、今の世の中、都会では希少価値です。

今年は橋浦町(堀川通三条下る)が復活し、23ヶ町での順位争いとなりました。近年、橋浦町は数軒の住宅のみであったことから、町内会は東隣の越後町に所属し、橋浦町住民は体育祭にも越後町から参加していました。しかし今年2月末、堀川六角に15階建て70戸のマンションが完成し、世帯数・人口が一挙に増加したため、橋浦町町内会は越後町から離れ、復活することになりました。体育祭では旧住民とマンション住民とが一体となり、インパクトのあるお揃いの黒いTシャツで、結束力と気合をアピール。黒いTシャツ軍団は各競技で大活躍、特にメドレーリレーでは決勝まで進出し、まさに本能学区のダークホース的存在として、トラックでも応援席でも注目を集めました。

蟻螂山町や橋浦町など、マンションにお住まいの方々の活躍と、各町内「世代交代」のメンバー構成で盛り上がった「本能体育祭」、来年からの展開が楽しみです。

一昨年、昨年に引き続き、立命館大学産業社会学部乾

ゼミの学生さん20名がボランティアスタッフとして体育祭を支えてくれました。競技準備や運営、場内放送、売店での販売(きつねうどん)など1日フル回転で走り回る若い力は、すっかり本能体育祭に溶け込んで、特に着ぐるみパフォーマンスはちびっこ達に大好評。本部席では今年で3回目の司会を担当してくれた吉田恵子さん(4回生)が競技の中継は勿論のこと、落とし物の案内や売店の販売状況など、場内放送を一手に引き受けて、朝から夕方まで笑顔と美声で頑張ってくださいました。



高齢者福祉施設 本能の入所者の方々も多数見学に来られ、爽やかな屋外での一日を楽しんでおられました。また施設職員の方もスタッフや元本能寺南町の選手として、地域住民と共に体育祭を盛り上げてくださいました。様々な方面の方の協力、「旧住民」とマンションにお住まいの「新住民」の参加により、年々進化する「本能体育祭」です。久しぶりの運動で力を出しきり体が痛かった人、応援に力が入り喉が痛くなった人、一日でスポーツの秋を十二分に満喫できたことでしょう。

これだけ盛り上がる体育祭を企画運営された、体振役員・委員の皆さん、立命館大学の学生さん、本当にありがとうございました。(ゆ)

本能美化行動の日

11月2日朝、本能学区では、京都市の「世界の京都・まちの美化市民総行動」に合わせ、自治本能連合会長の呼びかけで、本能公園愛護協力会・消防団の協力のもと、ボランティア総勢70名近くが集まり、学区内の清掃を行いました。

本能公園愛護協力会のタスキを掛け、軍手をはめ、熊手・箒・火バサミ・塵取り・植木バサミ・ゴミ袋を手に堀川通から各通り・本能公園・本能館・グラウンド等に散らばり、ゴミ拾い・草抜き・落ち葉掃除を行いました。忙しい中、時間を割いてお出ましくくださった方も多し一方、本能公園では、周囲で掃除しているにもかかわらず、ずっと犬を遊ばせている人達もいて、多少感覚のズレを感じ

ましたが、公園が憩いの場になっているのはうれしいです。

約1時間で、集まった枯葉や雑草・ごみがゴミ袋17個。参加人数も集められたゴミも昨年より倍増。天候良好で適度な運動になりました。後で学区内を通ると、スッキリ綺麗になっていて、さすがに気持ち良かったです。来年もどうぞお集まりください。何かお楽しみを企画されるようです。(N村)



防災訓練

12月14日(日)午前9時~11時半

本能グラウンドにて(雨天決行)

餅つき交流会

12月23日(祝)午前10時~

本能ノ辻子にて(数に限りがありますので、なくなり次第終了します)

新年互礼会

2009年1月1日午後1時~2時

本能自治会館にて

2008年度本能成人式

2009年1月12日(祝)午前9時半~

本能自治会館・八坂神社

お知らせ

ひとこと

◎「源氏物語千年紀」と紅葉で賑わう京都。いつの時代も人の心と、自然の美しさに感動するものですね。(ゆ)

◎「おいでやす染のまち本能」は天候が心配されていたが、当日スタンプラリーに参加した子供の勢いには驚かされた。交通整理をしながら「また次も来る」と言う子供の言葉に素直に嬉しかった。(乾ゼミ 寺村)

◎本能まちづくり委員会設立にお骨折りいただいた元本能自治連合会会長安西圭之助様が9月28日に逝去されました。享年95歳。生前のご尽力に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。(N村)